

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-86440

(P2000-86440A)

(43) 公開日 平成12年3月28日 (2000.3.28)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード* (参考)

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

U 4 C 0 8 3

7/48

7/48

J

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-256508

(22) 出願日 平成10年9月10日 (1998.9.10)

(71) 出願人 000135324

株式会社ノエビア

兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目13番地の1

(72) 発明者 駒井 秀紀

滋賀県八日市市岡田町字野上112-1 株

式会社ノエビア製品研究所内

(74) 代理人 390000918

竹井 増美

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ビールオフ型パック化粧料

(57) 【要約】

【課題】 塗布時の伸びがよく、皮膚の乾燥が速くて剥離しやすく、さらに使用後の保湿性にも優れるビールオフ型パック化粧料を得る。

【解決手段】 ポリビニルアルコール10～30重量%と、平均分子量400～4,000のポリエチレングリコール1～10重量%、及び酸化プロピレン付加量が10モル以下のポリオキシプロピレンジグリセリルエーテル1～10重量%を含有させて、ビールオフ型パック化粧料とする。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ポリビニルアルコール10～30重量%と、平均分子量400～4,000のポリエチレングリコール1～10重量%、及び酸化プロピレン付加量が10モル以下のポリオキシプロピレングリセリルエーテル1～10重量%を含有して成る、ピールオフ型バック化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、伸びがよくて剥離しやすく、さらに使用後のしっとり感に優れるピールオフ型バック化粧料に関する。さらに詳しくは、ポリビニルアルコールを皮膜形成剤として用い、これに平均分子量400～4,000のポリエチレングリコールと、酸化プロピレン付加量が10モル以下のポリオキシプロピレングリセリルエーテルとを加えて成るピールオフ型のバック化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】皮膚上において皮膜を形成させた後、その皮膜を剥離するピールオフ型バック化粧料は、皮膚表面の污垢を除去して皮膚を清浄化し、さらに古くなった角質層の除去効果にも優れ、皮膚の血行促進効果をも有することから、従来よりよく用いられている。かかるピールオフ型バック化粧料には、皮膜形成剤及び増粘剤の他、アルコール類、保湿剤、薬剤、界面活性剤等の成分が配合される。

【0003】特に保湿剤及び界面活性剤は、使用後にしっとり感を付与するため、或いは油性のエモリエント剤や水に溶解しにくい薬剤を可溶化する目的の他に、皮膜に可塑性を与える目的でよく用いられる。保湿剤としては、平均分子量300～4,000程度のポリエチレングリコール、グリセリン、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ソルビトール、糖類、ムコ多糖類、ピロリドンカルボン酸ナトリウム等が用いられ、界面活性剤としては、ポリオキシエチレンオレイルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタンモノラウリン酸エステルなどが用いられる。

【0004】しかしながら、上記の保湿剤や界面活性剤を含有させると、バック化粧料の伸びが重くなって塗布しにくく、皮膜の乾燥に時間がかかって剥離性が悪くなるという問題が生じていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】そこで本発明においては、塗布時の伸びがよく、皮膜の乾燥が速くて剥離しやすく、さらに使用後の保湿性にも優れるピールオフ型バック化粧料を得ることを目的とした。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するため種々検討を行った結果、皮膜形成剤としてポリビニルアルコールを用い、皮膜に可塑性を持たせるため、分子

量400～4,000のポリエチレングリコール、及び酸化プロピレン付加量が10モル以下のポリオキシプロピレングリセリルエーテルをそれぞれ一定量含有させることによって、良好な結果が得られることを見だし、本発明を完成するに至った。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明においては、皮膜形成剤としてポリビニルアルコールを用いる。ポリビニルアルコールとしては、化粧品用の皮膜形成剤として市販されているものを用いることができるが、ケン化度がほぼ90%のものが好ましく使用できる。ピールオフ型バック化粧料への配合量としては、10～30重量%が適当である。

【0008】本発明において、保湿剤及び可塑剤として用いるポリエチレングリコールとしては、平均分子量が400～4,000のものから選択した1種又は2種以上を用いる。ピールオフ型バック化粧料への配合量としては、1～10重量%とするのが適当である。

【0009】本発明におけるピールオフ型バック化粧料においては、さらにポリオキシプロピレングリセリルエーテルを含有させる。ポリオキシプロピレングリセリルエーテルは、ジグリセリンに酸化プロピレンを付加重合させたもので、本発明の目的には、酸化プロピレン付加量が10モル以下のものが好ましい。たとえば、ポリオキシプロピレン(4)ジグリセリルエーテル、ポリオキシプロピレン(6)ジグリセリルエーテル、ポリオキシプロピレン(8)ジグリセリルエーテル、ポリオキシプロピレン(10)ジグリセリルエーテル等が挙げられ、これらより1種又は2種以上を選択して用いる。ピールオフ型バック化粧料中におけるこれらポリオキシプロピレングリセリルエーテルの配合量は、1～10重量%とするのが適当である。

【0010】本発明におけるピールオフ型バック化粧料は、ゼリー状及びペースト状の形態で提供することができる。そして、ポリビニルピロリドン、ポリ酢酸ビニルエマルション等の他の皮膜形成剤や、グリセリン、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ソルビトール、糖類、ムコ多糖類、ピロリドンカルボン酸塩等のポリエチレングリコール以外の保湿剤をも併用することができる。またこれらの他、エタノール等のアルコール類、カルボキシメチルセルロース、カルボキシビニルポリマー、ペクチン、ゼラチン、キサンタンガム等の増粘剤、オリーブ油、マカデミアナッツ油、ホホバ油、流動パラフィン、スクワラン、エステル油等のエモリエント剤、カオリン、タルク、酸化チタン、酸化亜鉛、球状セルロース等の粉体、色素類、無機顔料類、美白剤、細胞賦活剤、抗炎症剤、殺菌剤等の薬剤成分、防腐防黴剤、界面活性剤、緩衝剤といった一般的な化粧料用成分をも含有させることができ

る。

詳細に説明する。

【0011】

【0012】

【実施例】さらに本発明の特徴について、実施例により

【実施例1】ゼリー状ピールオフ型パック化粧料

(1)ポリビニルアルコール	15.0 (重量%)
(2)カルボキシメチルセルロース	5.0
(3)ポリエチレングリコール (平均分子量1,500)	5.0
(4)エタノール	12.0
(5)香料	0.1
(6)バラオキシ安息香酸メチル	0.1
(7)ポリオキシプロピレン(8)ジグリセリル エーテル	1.0
(8)精製水	61.8

製法：(8)に(3)を添加し、75℃に加熱する。これに で脱気し、冷却する。

(1)、(2)を添加し、攪拌して溶解する。一方、(4)に(5)

【0013】

～(7)を溶解し、前記水相に添加して可溶化する。次い

【実施例2】ゼリー状ピールオフ型パック化粧料

(1)ポリビニルアルコール	12.0 (重量%)
(2)カルボキシビニルポリマー	1.0
(3)ポリエチレングリコール(平均分子量600)	3.0
(4)1,3-ブチレングリコール	3.0
(5)エタノール	10.0
(6)香料	0.1
(7)バラオキシ安息香酸メチル	0.1
(8)ポリオキシプロピレン(9)ジグリセリル エーテル	1.0
(9)水酸化カリウム	0.1
(10)精製水	69.7

製法：(10)に(3)、(4)を添加し、75℃に加熱する。こ 次いで(9)を添加して増粘させた後脱気し、冷却する。

れに(1)、(2)を添加し、攪拌して溶解する。一方、(5)

【0014】

に(6)～(8)を溶解し、前記水相に添加して可溶化する。

【実施例3】ペースト状ピールオフ型パック化粧料

(1)ポリビニルアルコール	25.0 (重量%)
(2)ポリエチレングリコール(平均分子量400)	5.0
(3)ポリエチレングリコール (平均分子量2,000)	5.0
(4)ホホバ油	2.5
(5)スクワラン	2.5
(6)ポリオキシプロピレン(10)ジグリセリル エーテル	10.0
(7)エタノール	8.0
(8)香料	0.1
(9)バラオキシ安息香酸メチル	0.1
(10)精製水	41.8

製法：(10)に(2)、(3)を添加し、75℃に加熱する。こ 合、均一化する。次いで脱気し、冷却する。

れに(1)を添加し、攪拌して溶解する。一方、(7)に(4)

【0015】

～(6)及び(8)、(9)を溶解し、前記水相に添加して混

【実施例4】ペースト状ピールオフ型パック化粧料

(1)ポリビニルアルコール	10.0 (重量%)
---------------	------------

(2) ポリ酢酸ビニルエマルジョン	15.0
(3) ソルビトール	5.0
(4) ポリエチレングリコール (平均分子量1,000)	5.0
(5) オリーブ油	2.0
(6) スクワラン	2.0
(7) ポリオキシプロピレン(6)ジグリセリル エーテル	2.5
(8) ポリオキシエチレン(20)ソルビタン モノステアリン酸エステル	0.5
(9) 酸化チタン	5.0
(10) タルク	10.0
(11) エタノール	8.0
(12) 香料	0.1
(13) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(14) 精製水	34.8

製法：(14)に(9)、(10)を加えて十分分散した後(3)、
(4)を添加し、75℃に加熱する。これに(1)、(2)を添
加し、攪拌して溶解する。一方、(11)に(5)～(8)及び(1

2)、(13)を溶解し、前記水相に添加して混合、均一化す
る。次いで脱気し、冷却する。

【0016】

〔実施例5〕 角栓除去用ピールオフ型パック剤

(1) ポリビニルアルコール	12.5 (重量%)
(2) キサンタンガム	2.0
(3) ポリエチレングリコール (平均分子量4,000)	7.5
(4) エタノール	15.0
(5) サリチル酸	0.5
(6) 香料	0.1
(7) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(8) ポリオキシプロピレン(4)ジグリセリル エーテル	0.5
(9) ポリオキシプロピレン(8)ジグリセリル エーテル	2.0
(10) 精製水	59.8

製法：(10)に(3)を添加し、75℃に加熱する。これに
(1)、(2)を添加し、攪拌して溶解する。一方、(4)に(5)
～(9)を溶解し、前記水相に添加して可溶化する。次い
で脱気し、冷却する。

験は、20才～50才代の女性パネラー20名を1群と
して用い、各群に実施例1～実施例5及び比較例1、比
較例2をそれぞれブラインドにて使用させ、塗布時の伸
び、乾燥速度、皮膜の剥離性、使用時の刺激感及び皮膜
剥離後のしっとり感について官能評価させて行った。

【0017】上記本発明の実施例について、次に示す比
較例1及び比較例2とともに使用試験を行った。使用試

【0018】

〔比較例1〕 ゼリー状ピールオフ型パック化粧料

(1) ポリビニルアルコール	15.0 (重量%)
(2) カルボキシメチルセルロース	5.0
(3) 1,3-ブチレングリコール	5.0
(4) エタノール	12.0
(5) 香料	0.1
(6) パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(7) ポリオキシエチレン(10)オレイルエーテル	0.5
(8) 精製水	62.3

製法：(8)に(3)を添加し、75℃に加熱する。これに
(1)、(2)を添加し、攪拌して溶解する。一方、(4)に(5)

～(7)を溶解し、前記水相に添加して可溶化する。次い
で脱気し、冷却する。

【0019】

〔比較例2〕 ベースト状ピールオフ型パック化粧料

(1)ポリビニルアルコール	10.0 (重量%)
(2)ポリ酢酸ビニルエマルジョン	15.0
(3)ソルビトール	5.0
(4)ポリエチレングリコール(平均分子量400)	5.0
(5)オリーブ油	2.0
(6)スクワラン	2.0
(7)ポリオキシエチレン(20)ソルビタン モノステアリン酸エステル	1.0
(8)酸化チタン	5.0
(9)タルク	10.0
(10)エタノール	8.0
(11)香料	0.1
(12)パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(13)精製水	36.8

製法：(13)に(8)、(9)を加えて十分分散した後(3)、(4)を添加し、75℃に加熱する。これに(1)、(2)を添加し、攪拌して溶解する。一方、(10)に(5)～(7)及び(11)、(12)を溶解し、前記水相に添加して混合、均一化する。次いで脱気し、冷却する。

【0020】なお、官能評価は次に示す評価基準に従って5段階評価にて行わせて点数化し、各使用群について20名の平均値を算出し、表1に示した。

【0021】〔塗布時の伸び〕

良好である	5点
やや良好である	4点
普通である	3点
やや悪い	2点
悪い	1点

【0022】〔乾燥速度〕

速い	5点
やや速い	4点
普通である	3点
やや遅い	2点
遅い	1点

【0023】〔皮膚の剥離性〕

良好である	5点
やや良好である	4点
普通である	3点
やや悪い	2点
悪い	1点

【0024】〔使用時の刺激感〕

感じない	5点
微妙に感じる	4点
少し感じる	3点
明確に感じる	2点
非常に感じる	1点

【0025】〔皮膚剥離後のしっとり感〕

ある	5点
ややある	4点
どちらともいえない	3点
ややない	2点
ない	1点

【0026】

〔表1〕

試料	塗布時の 伸び	乾燥 速度	皮膚の 剥離性	使用時の 刺激感	皮膚剥離後の しっとり感
実施例1	4.75	4.20	4.55	3.80	4.35
実施例2	4.10	3.85	4.00	3.95	4.50
実施例3	4.80	4.30	4.60	4.20	4.55
実施例4	3.90	3.80	3.80	3.90	4.65
実施例5	4.70	4.25	4.50	3.30	4.30
比較例1	2.45	2.80	2.55	2.65	3.55
比較例2	1.90	2.65	2.40	2.45	3.60

【0027】表1より明らかなように、本発明の実施例については、いずれの使用群においても塗布時の伸び、乾燥速度、皮膚の剥離性及び皮膚剥離後のしっとり感について、おおむね良い評価が得られていた。また、使用時の刺激感についても、微妙に感じられるか少し感じられる程度であると評価されていた。ポリエチレングリコール以外に保湿剤として1,3-ブチレングリコールを含有

する実施例2、及び保湿剤としてさらにソルビトールを含有し、界面活性剤であるポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノステアリン酸エステルをも含有する実施例4においても、従来の処方により調製した比較例1及び比較例2に比べ、塗布時の伸びや乾燥速度、皮膚の剥離性は大幅に改善されていた。

【0028】一方、比較例1及び比較例2使用群では、

塗布時の伸び、乾燥速度及び皮膜の剥離性についての評価が悪く、各実施例使用群に比べて使用時に若干の刺激感を認めており、皮膜剥離後のしっとり感についての評価も、各実施例使用群に比べて有意に低くなっていた。

【0029】なお、本発明の実施例については、25℃で6カ月間保存した際に全く状態の変化を認めず、男性パネラー30名による背部閉塞貼付試験の結果においても、即時型及び遅延型の皮膚刺激性反応は全く認められ

なかった。

【0030】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明により、塗布時の伸びがよく、皮膜の乾燥が速くて剥離しやすく、さらに使用後の保湿性にも優れ、使用時の刺激感についても問題のないピールオフ型バック化粧料を得ることができた。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA122 AB032 AB242 AB432
AC022 AC102 AC122 AC132
AC181 AC182 AC442 AC472
AC482 AD041 AD042 AD092
AD111 AD112 AD272 AD352
CC07 DD22 EE06 EE07 EE11
FF05